

考古資料精選③



石錘 (せきすい)



第61話

写真の資料は弥生時代に使用されていた石製の錘（おもり）で、中垣内に所在する鍋田川遺跡から出土したものです。材質は砂岩で、長径9.2㌢、短径5.1～7.5㌢、重さ約550㌘を測り、中央には紐（ひも）をかける溝が巡っています。主に漁に使う網の錘具に利用されたものと考えられています。

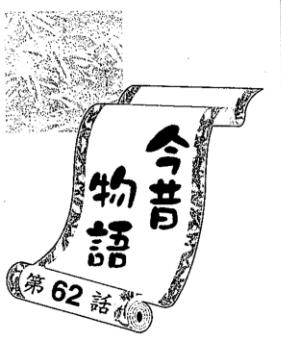
弥生時代には中垣内付近まで河内潟と呼ばれる潟（砂丘・砂洲・三角洲などのため、外海と分離して出来た塩湖）であったことから、この地においても漁労活動が盛んに行われていたのでしょうか。生駒

山地などの山々や潟が間近に迫っていた市域の弥生人にとって、予想以上に豊かな食生活を営んでいたのかもしれません。



考古資料精選④

弥生土器 (蓋・壺)

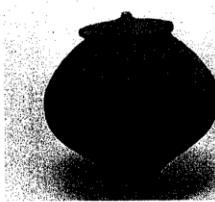


第62話

写真資料は弥生時代中期前半

（約2200年前）の無頸壺と、それに使用されていた蓋です。元は粉遺跡（中垣内3丁目）の調査で、当時の生活面からそろって出土しました。

蓋は直径8.3㌢、厚さ1.8センチを測り、円形で突起（つまみ部）を有し、紐穴が開けられています。無頸壺は口径7.2㌢、器高13・6センチを測り、表面には櫛描文、扇形文と呼ばれる模様が丁寧に施されています。また、無頸壺の口縁部にも蓋と同じく紐穴が開けられていることが、おそらく紐のようなもので蓋を取り付けていたことが分かります。



そろって出土することは稀なことからその歴史的価値の重要性はもちろんですが、共に完形品といふこともあり芸術的価値についても高いものと思われます。弥生人の感性をうかがうことの出来る貴重な資料と言えるでしょう。